飯田市歴史研究所ホームページ：https://www.city.iida.lg.jp/soshiki/39/

飯田市 歴研ニュース

News Letter No.139
The Iida City Institute of Historical Research

2025年12月1日発行

飯田市歴史研究所
〒395-0803
長野県飯田市鼎下山538
TEL　0265-53-4670
FAX　0265-21-1173
E-mail：iihr@city.iida.nagano.jp

新刊案内

画像で見る　飯田歌舞伎座
―明治の幻の大劇場―

定価　1,100円（税抜き）
12月1日　販売開始

明治末期から大正初期に飯田の羽場坂に存在した飯田歌舞伎座に関する書籍を刊行します。同劇場の図面や興行の史料を全ページカラー図版で掲載し、飯田に花開いた芝居を観る文化（観劇文化）の華やかさと町の熱狂を見ていきます。

飯田歌舞伎座は、当時の長野県内で最大級の大きさを持つ劇場でした。また、東京歌舞伎の大看板五代目尾上菊五郎や初代中村吉右衛門、初代中村鴈治郎、新派演劇の川上貞奴がこの舞台に立ちました。これらは飯田の町に観劇の文化を根付かせ、長らく自慢として語られました。しかし、長い年月が経ちその存在を知る人も少なくなっていました。この度、調査研究により同劇場と興行に関する史料が多数あることがわかりました。本書はこれらの史料を紹介して、飯田歌舞伎座の実態に迫ります。芝居や演劇はこの飯田下伊那地域にとって大切な文化です。同書は、この地域の芝居演劇と観劇文化の歴史を見直す契機になれば幸いです。

持ち運びやすいA5判で刊行しました。ぜひ手に取ってご覧ください。

開催告知　地域史講座「飯田歌舞伎座　―明治の幻の大劇場―」

開催日　2026年1月17日（土）

会　場　飯田市役所C棟3階会議場
（オンライン受講併用）
※受講無料

プログラム

- 14:00-14:05 開会行事
- 14:05-15:20 報告
  「飯田歌舞伎座―明治の幻の大劇場―」
  竹村 雄次（歴史研究所特任研究員）
- 15:20-15:35 コメント
  「飯田歌舞伎座の建築」
  岩田 会津（歴史研究所研究員）
- 15:35-16:00 質疑応答

書籍刊行に関連し地域史講座を開催します。本書刊行により明らかになった飯田歌舞伎座の状況や飯田の町への影響などを報告します。

会場に、本書で紹介した史料を多数展示し、質問にもお答えします。

お申込み

- Webフォーム・電話・FAX・メールでお申込みください。
- 1講義のみのご参加も可能です。
- 電話・FAX・メールは、必要事項①～④をお知らせください。

＜必要事項＞
① 受講方法（会場・オンライン）
② 氏名（ふりがな）
③ 電話番号
④ オンライン受講は
　メールアドレス、郵便番号、住所

- 申込締切：2026年1月14日（水）

Webフォーム

研究紹介「飯田御用覚書」から「飯田城絵図」を考える

羽田　真也（歴史研究所研究員）

「飯田御用覚書」は飯田藩堀家の飯田在住の重臣（用人）が、毎日のできごとを記録した政務日誌です。延宝２（1674）年の御用覚書（下伊那教育会所蔵）は現存する最古のもので（※）、寛文 12（1672）年に堀家が下野の烏山から飯田へ移ってきて間もない時期であり、またこの年の７月に新藩主の堀親貞が初めて国入りしたため、飯田藩のあわただしい動きが垣間見られます。

９月 25 日には、同月 7 日の大幅な役職替え（人事異動）に連動して、11 人の家臣に対し屋敷替え（屋敷地の下付や異動）が命じられています。対象になったのは、①新しく家臣に召し抱えられた者、②江戸詰めから飯田詰めへ変更になった者、③家格が引き上げられたり、新しく役職に任じられた者などでした。この記事には、彼らがどこに屋敷地を与えられたのかも記されています。

ところで、当時の飯田城下町の様子がうかがえる著名な史料に「信濃国飯田城絵図」（下伊那教育会所蔵。長野県宝）があります。縦 253 ㎝ × 横 301 ㎝の大きな絵図で、堀家の飯田入封の直前、脇坂家が藩主だった 1660 年代に作成されたと推定されます。城郭・武家地・町人地・寺社地など城下全体が描かれていますが、とくに武家地については、屋敷地 1 筆ごとに、坪数などを記した茶の付箋と、そこを拝領している家臣の名前などを記入した青の付箋が貼り付けられており、屋敷割の状況が詳しくわかります。また、この絵図は堀家にも引き継がれ、各屋敷地を拝領した堀家家臣の名前が、今度は白の付箋に記されています（写真参照）。しかし、この白の付箋がいつ貼られたのか、いつ頃の屋敷割の様子を示しているのかは未詳です。飯田入封直後であろうとの指摘もあり、私もおおよそそれに賛成ですが、検討の余地は残されています。そうした中、御用覚書の屋敷替えの記事は大きなヒントになります。

飯田城絵図　下伊那教育会

飯田城絵図（部分、江戸町・中之町あたり）
屋敷地ごとに茶・青・白の付箋が貼られている

御用覚書によれば、山本兵左衛門という家臣は、屋敷替えにより、他の２人とともに水の手に「新屋敷」を与えられていますが、飯田城絵図では彼の名前を記した付箋が上荒町（現・中央通り三丁目）で確認できます。そもそも飯田城絵図の水の手には、番所や足軽長屋が見えますが、家臣の屋敷地は描かれていません。また、山野惣左衛門には江戸町の松山源右衛門屋敷の東隣りにある屋敷地の半分が与えられていますが、飯田城絵図では彼の付箋が下荒町（現・中央通り一丁目）に見えます。これらの点から、飯田城絵図の白の付箋は延宝 2 年の屋敷替え以前のものであることがわかります。さらに、江戸町の松山源右衛門屋敷の東側について、飯田城絵図では「三羽次部左衛門下屋敷」という付箋が貼られていますが、御用覚書では「松山源右衛門東隣りの屋敷」と記すのみで、三羽の名前は見えません。おそらく彼がこの屋敷地を手放してから一定の時間を経ていたためでしょう。こうしたこともあわせ考えると、飯田城絵図の白の付箋は、まさに堀家入封直後に貼られたものであり、この段階で堀家がどのような屋敷割を行おうとしたかを示していると思われます。

【主な参考文献】
１. 吉田伸之「描かれた城下町飯田」飯田市歴史研究所編『みる よむ まなぶ　飯田・下伊那の歴史』2007 年
２. 伊坪達郎「飯田城下町図と飯田町」『伊那』2022 年３月・４月号
※2022 年に飯田市歴史研究所編『飯田・下伊那史料叢書　近世史料編３　延宝二年 飯田御用覚書』として刊行

イルーミニエッセイ 42

建築学生に向けた信州南部の研修旅行

福村　任生（日本大学／歴史研究所調査研究員）

私が現在所属する日本大学生産工学部建築工学科では、コロナ禍以前に行われていた研修旅行の再開にあたって、建築学生にどのような多様な学びの機会をつくるか検討を重ねています。来春には京都・奈良の古建築を見学する研修旅行も予定されていますが、まずその第一弾として、10 月初旬に信州南部の地域景観と現代建築を巡検する１泊２日の弾丸ツアーを実施しました。

初日は、景観法に基づいて旧街道宿エリアを歴史保全地区に指定し、まちづくりを進めている上伊那の宮田村を訪問し、2021 年の歴史研究所の研究集会で報告を依頼した小池勝典さんにご案内いただきました。また、２日目は飯田市内に移動し、午前に遠山地方の斜面集落として下栗の里、午後に伊豆木の旧小笠原書院・小笠原資料館と飯田市美術博物館を訪れました。

７月頃に旅程を決定し、学内全体で参加者を募集したところ、主に建築設計の分野での活躍を目指す学部生･院生12名が集まりました。引率者として､非常に充実感のある２日間を過ごすことができました。素朴な山間地域において歴史的建造物がおかれている現状や、そこに暮らす人々の生活など、短い滞在期間の中ですが、私が歴史研究所で学んだことのエッセンスを伝えられたらと考えた次第です。

また今回、地方における現代建築の事例として、小笠原資料館と飯田市美術博物館を見学しました。地元にとっては、見慣れた建物ですが、建築学生からすると、著名な建築家の作品がこうした地方都市につくられたこと自体が驚きで、またデザインの完成度の高さにも感銘を受けていたようです。設計者が公募ではなく、地域に縁のある革新的な建築家が選ばれたことで、妥協のない個性的な建築作品が生まれたことは、改めてみると非常に興味深いことのように思われます。

開催告知　聞き取り入門講座を開催します

（飯田アカデミア第108講座「戦後の地域の歴史と個人の歴史」関連企画）

いま、地域の思い出を残すための取り組みが全国各地にひろがっています。飯田市歴史研究所でも、聞き取りによる地域史の記録に力を入れています。この講座では、聞き取りに関心がある方が、実際に取り組んでみるための具体的な方法を学びます。お話を聞くときに気を付けることを知り、機材の使い方なども練習します。聞き取りに取り組んでみたい方はぜひお越しください。

この講座で学んだ方は、2026年3月に開催する戦後の農村写真展で、来場者への聞き取りにもチャレンジできます。経験者の方の語りに耳を傾けて、一緒に記録を作ってみませんか。

※12月7日開催の飯田アカデミアでも関連する内容が取り上げられます。

昭和31年頃の国道153号線の風景（上郷飯沼）

○ 開催日　**2026 年 2 月 21 日 土　13:30~15:30**

○ 会場　飯田市役所Ｃ棟３階会議室

○ 講師　安岡 健一 さん（大阪大学／歴史研究所顧問研究員）

※受講無料

お申込み

- Web フォーム・電話・FAX・メールでお申込みください。
- 電話・FAX・メールは、① 氏名（ふりがな）、② 電話番号をお知らせください。
- 申込締切：2026 年 2 月 18 日（水）
- オンライン受講はありません。

Web フォーム

開催告知　**飯田アカデミア第109講座**

「新しい世界史教育を目指して――理論編＆体験編」

○開催日　**2026年2月14日（土）**

第１講 13:30～15:00「理論編――歴史実践としての世界史」
第２講 15:15～16:45「体験編――中世ヨーロッパの十字軍の授業」

○会　場　飯田市役所Ｃ棟３階会議室（オンライン受講併用）

○講　師　小川 幸司 さん（伊那弥生ヶ丘高校）

講師より

現在の高校歴史教育は、従来の知識注入重視から、資料を丁寧に読んで考察する歴史的思考力重視に転換しつつあります。私は、歴史を学ぶことで、①「論点（課題）」と、②それに対する複数のアプローチ、そして③その際に重視する思考方法などを知ることができ、複数ある選択肢の中で主権者である自分はどれを選びとるかという「市民としての歴史的思考力」を磨くことができると考えています。

今回の飯田アカデミアでは、歴史教育で私が目指していることをお話しし（理論編）、中世ヨーロッパの十字軍を事例に模擬授業をしてみたい（実践編）と考えています。

お申込み

- 資料代 500 円（高校生以下無料）。１講義のみのご参加も可能です。
- Web フォーム・電話・FAX・メールでお申込みください。
- 電話・FAX・メールは、必要事項 ①～④をお知らせください。
  ＜必要事項＞　① 受講方法（会場・オンライン）　② 氏名（ふりがな）　③ 電話番号
  ④ オンライン受講はメールアドレス、郵便番号、住所
- 申込締切：2026 年２月 11 日（水）

Web フォーム

受講生募集中!!

歴研ゼミ＆ワークショップ　12月・1月の予定

会場：歴史研究所 研修室

近世史ゼミ
「飯田御用覚書」を読む
（2 面で研究紹介）
12月10日・24日 / 1月14日・28日
第2・4水曜日 18:30～20:30
担当:羽田 真也(研究員)

建築史ゼミ
身近な空間の歴史を調べてみる
12月19日 / 1月16日
第3金曜日 18:30～20:30
担当:岩田 会津(研究員)

地域史ゼミ
大正期 LYL 事件の刑事記を読む
12月11日 / 1月8日
第2木曜日 13:30～15:30
担当:伊藤 悠(研究員)

思想史ワークショップ
清水幾太郎『天皇論』他の輪読と論議
12月3日・17日 / 1月7日・21日
第1・第3水曜日 19:00～21:00
市民の皆さんが自主的に学び合う場

満洲移民研究ゼミ
文書・記憶・個人の記録から考える
第167回 12月6日 / 第168回 1月10日
第1土曜日 10:00～11:40
担当:本島 和人(調査研究員)

近現代史ゼミ
昭和 11 年胡桃澤盛日記を読む
12月20日 / 1月24日
第4土曜日 10:00～11:40
担当:田中 雅孝(調査研究員)

※年末年始は、ゼミの日程が変更になっていますのでご注意ください。

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL：0265-53-4670
開所時間：午前９時～午後５時　　休所日：日曜日・月曜日・祝日・12 月 29 日～１月３日
メール配信をご希望の方は、E-mail：iihr@city.iida.nagano.jp まで